

## 第21回防災文化講演会を気仙沼市で開催しました(2016/11/18)

テーマ：歴史に学ぶ防災

場所：気仙沼市魚市場3F会議室

11月18日(土)に気仙沼市魚市場にて第21回防災文化講演会を開催しました(主催：災害科学国際研究所)。講演会には一般の方々約25名が参加し、当研究所の蝦名裕一准教授(人間・社会対応研究部門)、東北学院大学の菊池慶子教授が講演を行いました。

講演内容

蝦名 裕一 「歴史地形にみる災害と防災」

菊池 景子 「海岸防災林の歴史と現在」

蝦名准教授は、1611年慶長奥州地震津波や2016年の岩泉町の河川氾濫について、古地図の分析からかつての地形に災害の要因が存在していたことを述べました。菊池教授は仙台藩時代からの海岸防災林の形成について紹介し、海岸林を住民達が共同管理するなど、沿岸部の海岸林に守られた暮らしと信仰、共同性があったことについて述べました。特に気仙沼市については、江戸時代のクロマツの植樹の伝承や、明治時代の「魚付林」としてアカマツやスギなどが植林されたことを紹介し、漁業との関わりについて明らかにした。さらに、東日本大震災で被災した海岸林の再生・維持は市民の存在なくしては困難であることを強調し、これを受けて参加した市民からも地域の海岸林についての情報が寄せられるなど活発な議論が行われました。



蝦名准教授



菊池教授

文責：蝦名裕一(人間・社会対応研究部門)